

TERU

古民家再生・新築・リノベーション
輝建設株式会社





TERU

古民家再生・新築・リノベーション
輝建設株式会社

TERUは、木をたくさんつかって、自社設計・自社施工で新築を建てたり古民家を直したりしている工務店です。当社がお客さまとつくったり、なおしたりする家は、今の生活にあった新しい工法・建材・設備機器を、昔ながらのものや工法・建材と組み合わせて適材適所使っています。写真はTERUのショールームも兼ねたハウスギャラリー「石切ヴィレッジ」の一コマ。東大阪市石切の事務所敷地内には7つの建物があり、築260年の古民家は改装して事務所兼ギャラリーとして活用しているのもTERUスタイルのひとつです。



100年以上前に建てられた生駒の古民家。生活動線を考えた間取り変更、断熱性能の高いサッシに入れ替えたり、水回りの刷新、構造補強などを行った(2016年竣工)





高知県梶原町産の杉・桧をつかって
新築された箕面の家。木をほどよい分
量見せるデザインはなかなか難しく腕
の見せ所(自社設計・施工)





木や土をつかった家に住みたいんだけど・・・

使いたい材料ややりたいことは決まっている。でも、どうしたらいいのかわからない方へ

いま、自分の家を新しく建てるのか、古家をリノベするのかわかなくて悩んでいる。ただ、家をどうにかするときには、木や土をたくさん使うというのは絶対条件。無垢材は空気をたくさん含むから足触りがよくて暖かいとか、土壁は湿気を含んでくれるから涼しく感じるとか科学的に説明できるらしいけど、まずは肌に触れるところは、直感で昔ながらの木とか土を使いたいと思っている。

無垢材も杉や桧なんかの近くの山からきた材料で、それをいっぱいつかってもらいたいし、昔ながらの土壁や珪藻土の塗り壁も接着剤なんか混ぜずに昔ながらのやり方で左官屋さんに塗ってもらいたい。そう

そう、家具はできたらタモとかナラとか渋い木の作り付けで。お風呂もキッチンもできたら木でつくりたい。

とはいえ、夏暑すぎて、冬寒い場所だらけっていう家は勘弁してほしい。理想は、夏は木陰みたいに涼しくて風がそよそよと流れ、冬はどこもかしこも寒くない。となると、天井・壁・床にきっちりと断熱材を詰めてもらわないといけないだろう。もちろん、隙間風なんかないように気密もしっかりととらないと。

でも、そうすると窓が小さくなったり、小さく区切られた部屋ばかりにならないか心配だ。だけど、最近の窓はガラスも窓枠も随分性能があがって、外の暑さ



や寒さを寄せ付けにくいらしい。冷暖房の効率を考えると小さな部屋がいいのかと思っていたけど、引き戸の開閉でスペースを大きくしたり、こじんまりしたりできるような設計をしてもらおうと便利そう。できれば、町屋の古建具とかを入れられるといいね。

いつかいつかと思っていたけど、そろそろ家のことを真剣にすすめていかないといけない…。理想と現実。予算のこともあるし。どれだけ詰め込めるのか、まずはいろいろ調べないと。そうそう、実家の古民家も壊さずに残したい。耐震のことなども相談しながら、傷んだところは直して、住みやすいように間取りや設備を入れ替えてあげたい。そういえば、父さん、いつ

か薪ストーブいれたいっていたな…。

というような感じで家のことを悩んでいらっしゃる方が私たち、TERUです。木の家づくり、20余年。新しいだけでなく、古いものだけでもない、温故知新に新技術でロングライフな家づくりを目指しています。

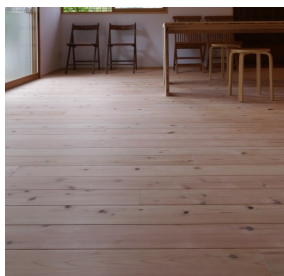
(写真左より／新築・竣工2011年／新築・竣工2011年／築100年古民家再生・竣工2016年／築90年古民家再生・竣工2011年　すべて自社設計・施工)

いつもやっていること、つかっているもの

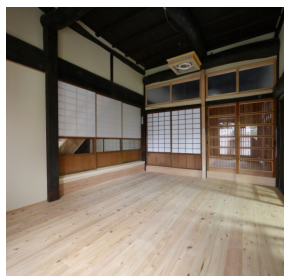
TERUが、いつもつかっている建材や設備、基本プランなどをご紹介します。新しいものも昔からあるものも合わせてつかっていくのが、TERU流の木の家づくり。例えば、昔ながらに傷んだ柱を根継ぎしたり、最新式のハーフユニットバスで木のお風呂をつくったり、珪藻土DIY施工も応援しています



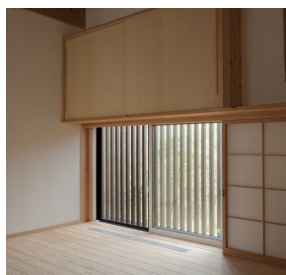
新築の構造材は高知県梼原町や奈良県吉野地方の杉・桧を使っています。古民家再生には古材を使えます



無垢材フローリング。杉の節有材が一番リーズナブルですが、桧の無節や栗、タモなどの広葉樹のものも適材適所で



塗り壁。古民家の土壁補修は当たり前。新築やリノベでも左官仕上も積極提案。珪藻土DIY教室も行なっています



地窓。夏、床上の空気が動きやすくなります。西からの日差しや外からの視線が家の奥までこないという効果も



断熱窓枠とペアガラス。窓からの熱損失を軽減させて、冷暖房の効率をあげたり結露を防ぐことができます



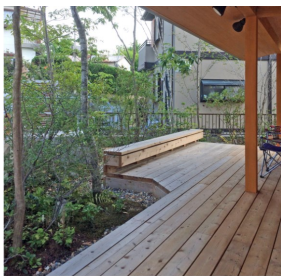
TERUオリジナルのテルキッチン。桧の板とドイツ・オーストリア製のキッチン金物でベースをつくります



ペアガラスのインナーサッシ。リノベや古民家再生で窓の入替なしに、内側にもうひとつ窓を設けて断熱力アップ



広い土間スペース。新築でなくてもつくれます。写真のお宅はリノベで玄関横の和室を土間に変更しました



外メシのできるウッドデッキ。庭の地面レベルをあげて、緑と家を近づけるといいうテクニックがあります



根継ぎ、家起こし。腐ったり、蟻害のある柱を伝統の技で継ぎます。傾いた家はジャッキ等を用いて起こします



ハーフユニットバス。水漏れリスクがほとんどないユニットバスの上部に、木やタイルを張ったりできます



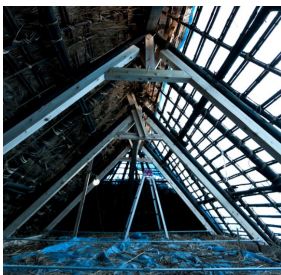
OMソーラー。太陽熱で温めた空気を床下に通って基礎コンクリートに蓄熱させる床暖房です



古民家の古建具をたくさん在庫して、古民家再生だけでなく新築、リノベでも活用しています



薪ストーヴ。国産、外国製問わず自社スタッフで設置からメンテナンスまで行なっています



瓦屋根、板金屋根だけでなく茅葺屋根の葺き替えもお受けしています



古民家に薪ストーブがよく似合う。炉壁
は住まい手のDIY作業でつくられた



写真上／気持ちのいいものは家の外からやってくる。庭と家をセットで考える 下／ホビースペースを玄関土間横にレイアウト



天井裏は物置でない。おとな子どもも一人になれる癒しの空間



昔は土間だったところを元どおりに復旧。壁引き込みの全面開口サッシをいれて外と繋げる



(写真上) 木製建具は既存のものを調整して再利用 (下左) 田の字の3室を床板張りに (下右) 豪快な梁組も古民家の魅力



(写真上)アイランドキッチンが根強い人気(下左)築30年のリノベでア薪ストーブ導入(下右)大工のつくった木の洗面台

古民家再生。古くても使えるものを、現代の生活に合わせて使いやすいようにする。それがTERUの古民家再生です。



江戸時代に建てられた古民家でも、屋根・壁からの雨水侵入を防げばさらに長持ちして使えるようになります。外部塗装をきちんと下地から直しました



長い間つかわれていなかった2階を子供部屋に。屋根面には断熱材、窓は断熱サッシに入れ替え。壁を白くすれば古民家の薄暗さが軽減されます



古民家再生の浴室。高野槇の浴槽、ヒバの壁板、木製建具。寒くないように床にはコルクタイル。浴槽は取り外して、洗ったり、乾かしたりできるように設置。



大正時代の離れを再生。床下にネオマフォーム50mm、天井裏にパーフェクトバリア200mm、土壁の外部には断熱材を部分的に付加している。窓はペアガラスと断熱アルミサッシ



新築だと真似できない太い梁組や、細々とした小屋組を見せる仕上げも古民家再生ならではの魅力。野地板をやり変えるときれいに見える



壁の少ない古民家、特に縁側に地震対策として格子壁の挿入。光を通すので暗くならない。雪見障子との組み合わせがオススメ



築300年の古民家再生。キッチンダイニングと和室リビングの間、一家団聚のスペースに薪ストーブを設置。ストーブを焚くと、そこになぜだか家族が集まる。

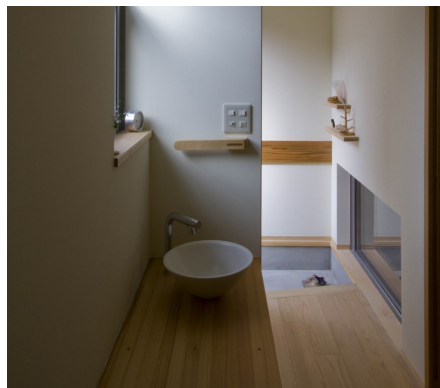


古民家でよく使われている格子戸。戸車の調整や裏側にアクリル板をいれて冬の寒さを防ぐようになりこれからも現役で使えます

近くの山の木でつくる新築の家。TERUの大工は、家本体の構造や床板だけでなく、家具もたくさんつくります



木と左官壁つくる落ち着いた外観。周辺の町並みに調和した外観はながく暮らすための第一歩かもしれない。緑もおそろい分けできるとなお楽しい



玄関入ってすぐに手洗い場を設ける。手洗い台の天板はタモ。大工作成家具に天板を広葉樹を選ぶのは人気。木製タオルハンガーは作家さんの作品



和室とリビングつながった新築の家。吹き抜けのある家も、確かな断熱・気密工事にOMソーラーと薪ストーブで寒い場所がない家に



トイレの棚も大工がつくって木にすることができます。杉板、シナランバーコア、構造用合板など、予算に合わせて。焼き物などの手洗い陶器などの取り付けにも応じています



天井裏を設けずにロフトを設ける。収納スペースだけでなく、ときに子供たちの遊び場に。もちろん、天井裏収納をつくることもできます



階段上のデッドスペースの上に設けた本棚。無駄なくスペースをいかせるのが注文住宅のいいところ。内壁の厚みを利用して、ニッチ棚をつくることも



TERUオリジナルのテルキッチン。キッチン本体とバック棚の引き出し収納で沢山ある食器もまとめて、台所もスッキリ。吊棚は欧州のように低い位置にとりつけたほうが使いやすい。



i-worksバージョンのテルキッチン。独エッガー社のキッチンキャビネットボードにチーク材の手がかりで構成。天板も通常よりも10cm奥行きを深くして調理しやすく

リノベーション。今ある住宅の性能や使い勝手を向上させる改修工事。断熱性能向上、間取りの変更など、やり方次第で新築同様にもなります



門から直接のぞかれないように、玄関を付け替えたり、板塀をもうけたりすることで、住宅街でも道路側に面したカーテンを閉めずに過ごせるようになります



マンションでも、木の家をつくることができます。外に面した壁の裏側に断熱材、インナーサッシをつけて温熱環境の改善も



小さい頃からハンモックのある家に住むのが夢だったお客様宅。ご要望にお応えしてハンモック用の梁を表して取り付けました。後ろにはデイベッドがおけるスペース



天井付けシーリングランプでなく、ペンダントを一灯。天井をすっきりさせれば部屋が広く見える。壁付けランプやフロアーランプで光の重心を下げてホテルのラウンジのような空間に



築数十年経った和室2間の2階をひとつにつなげた、染物作家さんの住宅兼ギャラリー。新しい白い壁と既存の天井板のコントラストがユニークな仕上がり



1階を大きな一室空間にした築30年のリノベ。冬、階段から2階床の冷気を防ぐために建具取り付け。正面奥の黄色い建具は既存建具をペンキ仕上げ



大工がつくる家具に囲まれたダイニングスペース。収納量や棚のデザインはリノベーションの造り付け家具ならではの。打合せ時の手持ちの食器や調理器具などの置き取りが大切



窓が動かせなかったら、鏡を動かせばいいじゃない。窓前の障子鏡が動いて、窓の開閉ができます。これぞリノベのアイデア賞！



石切ヴィレッジの築260年の古民家の土間に打ち水



お気軽に、TERUの石切ヴィレッジにお立ち寄りください

TERUの事務所、石切ヴィレッジには500坪の敷地に築260年の古民家、築50年のプレファブなど7つの建物があり、本書で取り上げた建材や方法で改修し、モデルハウス兼打ち合わせスペースとして活用しています。ここでの日々で実感する木の家の気持ちの良さ、これを快適に長く暮らせるお客様の木の家づくりにお届けしたいと思っています。本書をご覧になって、もっと話を聞きたいことがありましたら、ぜひ一度当社にお声がけください。これまでの経験をもとにみなさまのお役にたてるようなご提案をさせていただきます。

TERU

古民家再生・新築・リノベーション
輝建設株式会社

輝建設株式会社(てるけんせつかぶしがいいしゃ)

○所在地

〒579-8011

大阪府東大阪市東石切町5-4-54 石切ヴィレッジ

○電話 072-987-2200

○ファクシミリ 072-987-2230

○URL www.terukensetsu.jp

○Eメール info@terukensetsu.jp

○Facebook <https://www.facebook.com/teru.osk.jp/>



